Sagor för barn på svenska

berattelser.se

ノジベレと三本の髪の毛

Skriven av: Tessa Welch
Illustrerad av: Wiehan de Jager
Översatt av: Masato Tanaka

Denna saga kommer från African Storybook (africanstorybook.org) och vidarebefordras av Sagor för barn på svenska (https://berattelser.se/), som erbjuder sagor på månge språk som talas i Sverige.

Detta verk är licensierat under en Creative Commons
Erkännande 3.0 Internasjonal Lisens.
https://creativecommons.org/licenses/by/3.0/deed.sv

ノジベレと三本の髪の毛

Tessa Welch
Wiehan de Jager
Masato Tanaka
japanska
nivå 3

(utan bilder)

むかしむかし、三人の女の子が薪を集めに出かけました。

すると、犬はノジベレが自分をだましたことに気がつきました。犬は村に向かって走り続けましたが、村ではノジベレの兄弟が大きな棒を持って待っていました。犬はふり返って走りさっていき、それ以来現れることはありませんでした。

その日はとても暑く、三人は川へ泳ぎに行きました。三人は水遊びをしたり水の中を泳いだりしました。

突然、三人はおそい時間になっていることに
気がつき、急いで村に帰ろうとしました。

犬は家に戻るとノジベレを探しました。「ノジベレ、どこにいるんだい！」と叫びました。すると、「ベッドの下にいるよ」と一本目のかみの毛が言いました。二本目が「扉の後ろにいるよ」と、三本目が「囲いの中にいるよ」と言いました。

犬が出て行ってすぐに、彼女は自分のかみの毛を三本抜きました。一本をベッドの下に、一本を扉の後ろに、もう一本を囲いの中に置くと、できるだけ速く村へ向かって走りました。

村の近くまで来たところで、ノジベレが首元に手を当てました。ノジベレはネックレスを忘れてきてしまったのです。「お願い、一緒に戻って！」と彼女は二人に頼みました。しかし二人はもう時間がおそすぎると言いました。

ノジベレは一人で川に戻ることにしました。ノジベレはネックレスを見つけると村に急ぎました。しかし、彼女は夜道で迷ってしまったのです。

ノジベレは毎日犬のために料理やそうじ、せんたくをしました。ある日犬がこう言いました。「今日は友達のところに行かなきゃ行けないんだ。帰ってくる前にそうじやせんたくをして、何か作っておくんだよ。」

すると、「ベッドを用意しろ」と犬は言いました。ノジベレが「犬のベッドを用意したことなんかないわ」と答えると、「用意しないとかみつくよ！」というので、彼女はベッドを用意しました。

遠くに小屋の光が見えました。そこに急いで向かい、扉をたたきました。

驚いたことに、犬が扉を開けて、「何がほしいんだい？」と言いました。「迷ってしまったので寝る場所がほしいのです」と彼女が答えると、犬は「おいで、じゃないとかみつくよ」と言いました。

中に入ると、犬が「何か作ってくれ」といいましたが、ノジベレは「犬にごはんを作ったことなんかないわよ」と言いました。すると犬は「作らないとかみつくよ！」というので、ノジベレはごはんを作りました。